1Yp-2

奈良女子高等師範学校における家事研究の系譜

湊川女子短期大学　倉元綾子

《目的》家政学から生活科学等への名称変更が進むとともに、学問内容についての議論が盛んに行われている。これらの議論を進めるうえで、今日までの家政学の歴史を検討し、成果、問題点を明らかにし、正の遺産を受け継ぎ、発展させることは重要である。演者は奈良女高師における1920(大正9)年からの『家事研究』誌の刊行と概要を明らかにした。その際、調査した奈良女高師関係史料のなかには、家事教育研究関係者の教育研究に対する旺盛な意欲をうかがわせるものが少なくない。そこで、これについて報告する。

《方法》奈良女子大学校史関係史料のうち、博物家事部・家事科関係史料と教育研究関係史料を調査検討した。

《結果》その結果、以下の点が明らかになった。

(1)「家事(科)研究会」は奈良女高師開校2年めの1910(明治43)年5月から1911(明治44)年1月までほぼ毎週1回、全19回にわたって開かれた。会は校長野尻精一によって指名された委員によったが、野尻校長、石沢吉磨、越智キヨ、高橋章臣、錦織竹香、桑野久任らの関係者10名程度が出席して行われた。

(2)会は家事科の目的、教材の選択、教材の配列、教授方法などの研究を目的とした。

(3)討論事項は、家の定義、家事科の定義、家事科の教育内容、教育の程度についてなどであった。

(4)1920(大正9)年の『家事研究』誌刊行はこの研究会の発展的展開と位置付けることができる。